

Grand Central Station NEWS

大宮駅グランドセントラルステーション化構想 ニュース

発行 令和2年11月 さいたま市

3 意見用紙でいただいたご意見

まちづくりガイドラインについて

- 理想や夢は大切だが、急速な少子高齢化、異常気象、大地震、財政逼迫という現実の中で、**大宮駅を中心とした緊急整備という命題をいかに迅速、確実に実現させるかが最重要**である。まず何から始めるか、どれを優先するかをやり出すことが大切である。
- 運用段階の話をどこまで盛り込むかは難しいところだが、**そこが重要**だと思うので、その議論も深めてほしい。
- 東京駅や横浜駅のような大宮駅になってほしい。まちづくりに関しては、**東日本を代表する一大ショッピング、エンターテインメント、カルチャーセンターとして有効に機能する様に全体をプランニング**してほしい。ガイドラインに掲げる6つの目標はその通りだと思うが、**現状の進行度合いだと運命の十年に間に合うのか不安**である。

今後の進め方について

- 前回に比べ、**目的が長期にはっきり示された**ので良かった。**街区同士のルールを決めることの重要性**が分かって良かった。
- GCSの様々な会議が進んでいるので、**その状況報告も（公開が可能な範囲で）共有してもらえると議論が深まる**。
- GCSに市民の生の声が反映出来る様に**努力してほしい。学と公とのコミュニケーションを含め、その**学識を十分に生かしているのか、コンサルタントの力も十分に利用できているのか**をチェックし、プランに反映出来る様になりたい。少しでも良いプランになる様にする為には何が出来るのか、何が必要なのか。
- コロナ対策について気になることがある。2回目、3回目共**グループワーキングが三密**であった。不特定多数の集まりで、もし症状のない感染者がいたらクラスターが発生すると思う。私自身も**新型コロナウイルス感染拡大に慣れてしまい、以前のような緊張感がなくなっている**のを感じている。**1回目のようなテーブルを挟んだ形なら安心**だと思う。（前の方とはずいぶん空いていた気がする。）

4 令和2年度第4回デザイン調整ワーキング開催について

下記日程で、『令和2年度第4回デザイン調整ワーキング』の開催を予定しています。
参加をご希望される方は、氏名・連絡先（メール又はFAX）・住所を明記の上、事前に下記申込み先までメール又はFAXでお申込みください。

開催概要

■日時
令和2年12月1日（火）10時～12時

■場所
大宮区役所6階 601・602会議室
※新型コロナウイルス感染拡大防止による会場の人数制限に伴い、参加者を調整させていただくことがあります。

■内容
これまでいただいたご意見を踏まえ、大宮GCSプラン2020（案）の深度化に対する考え方について意見交換を予定しています。


■申込み先
◆FAX :048-646-3292
◆メール:higashinihon-kyoten-seibi★city.saitama.lg.jp
(★を@に変えて送信)

【GCS 構想ホームページへのアクセス方法】-----

以下の2つの方法からアクセスできます。ぜひご覧ください。

①キーワードで検索▶

②QRコードを読み取り▶



※その他、GCS構想に関するご質問・ご意見等、随時受け付けておりますので、下記までご連絡ください。
連絡先：さいたま市 都市局 都心整備部 東日本交流拠点整備課 拠点施設整備係
[TEL] 048-646-3281 [FAX] 048-646-3292

1 令和2年度第3回デザイン調整ワーキング開催の報告

今回の『令和2年度第3回デザイン調整ワーキング』は、11月4日（水）に開催し、37名の方にご参加いただきました。

当日は、まちづくりガイドラインの深度化の方針について説明した上で、①「大宮らしい歩行者空間の在り方」、②「大宮らしい交流空間の在り方」、③「災害時のバックアップ空間の在り方」の3つのテーマを基に、参加者の皆様にグループワークを行っていただき、様々なご意見をいただきました。

次頁から、いただいたご意見をご紹介します。



▲会場の様子

▲グループワークの様子

▲講評の様子

2 当日の主なご意見

本頁からは、皆様から当日のグループワーク及び意見用紙でいただいたご意見をご紹介します。
今後、いただいたご意見を踏まえ、検討を進めて参ります。

まちづくりガイドラインについて

都市空間形成の目標ごとにご紹介します

1

回遊性

まちとえきをつなぐ回遊空間をつくる

●まちとえきをつなぐ歩行者空間の在り方

- ・日常の人の「流れ」と「溜まり」の関係や街区同士のつながりを考え、デッキ・地上・地下の在り方を考える必要がある。
- ・地上の歩行者空間を広げるためには、交通空間の配置検討が必要である。
- ・地下空間を商業店舗でつないで賑わいをつくる必要があるのではないか。
- ・中央連絡通路と新東西通路はまちと駅をつなぐ上で重要である。24時間通行できるようにしてほしい。
- ・年1回の祭りの際は、駅前が重要な場所となるため、上部にデッキがない場所で行いたい。

●可変性のある空間づくり

- ・広場と通路、人と自動車など、様々な目的や対象に応じて、限られた空間の中で歩行者空間・交流空間・災害対策空間等を積極的に使い分けていくべきである。
- ・可変性のある空間利用のルールづくり、配置の工夫等ができるとうい。

●銀座通り・南銀座通りの位置づけ

- ・銀座通りは象徴的な通りである。車両（荷捌き、緊急車両等）の動線や利用方法を工夫し、歩行者中心の通りにできるとうい。
- ・現在は駅前広場で分断されているが、南北をつなげられるとうい。

●広域的な回遊性の確保

- ・さいたま新都心にイベントに来た人々が大宮に立ち寄れるよう、通りのつながりを持たせる必要がある。

2

交通

ひとにやさしい立体の交通空間をつくる

●歩行者のための移動空間の確保

- ・移動距離があっても飽きない道づくりが必要である。
- ・縦動線は歩行者が視認しやすい設えとし、視認しやすい位置に配置する必要がある。

●バス乗降場の配置の在り方

- ・バス乗降場が駅から離れるとう不便。分散配置にするならば、動く歩道のようなハード整備ではなく、次世代交通システムを積極的に活用できるとよい。

●自転車の移動空間の在り方

- ・自転車通路のルール化、駐輪場配置の在り方を整理する必要がある。

3

都市機能

新たな価値を発信する先進的なまちをつくる

●賑わい機能の確保

- ・地区全体として楽しめる商業施設が隣接し、休憩スペースやイベントスペースとして利用可能な設えが必要。
- ・新東西通路は寂しい空間にならないように、視点場としてだけでなく、商業機能の充実などの考え方も盛り込むべきである。

●生活者が利用しやすい場の確保

- ・大宮駅周辺には市民が自由に集える屋内公共スペースが無い。多様な世代が生活者として利用できる空間が必要である。

4

防災・環境

安心・安全の要となるまちをつくる

●災害に強い都市空間の創出

- ・集中豪雨や強風などへの対応を踏まえて、緑や建物の配置、地下・駅・道路の空間の検討を深めるべきである。

●帰宅困難者の受入れ

- ・日常の広場空間を有効活用し、帰宅困難者の受入れ空間を確保できるとよい。
- ・民間施設や鉄道施設等と行政が協働し、災害時に利用できる実現性の高い仕組みやルール等が必要である。（一時滞在スペースや備蓄倉庫等の確保・配置、電力供給の役割分担、戸建て住宅におけるバックアップ機能の確保等）

5

景観

市民が誇らしく思い、来訪者が感動する景観をつくる

●大宮らしい景観

- ・氷川の杜は大宮らしさの一つの象徴である。

●通りや空間の特性に合った景観づくり

- ・駅前には豊かな緑の配置等で、駅からまちに人を導くシンボリックな空間づくりが必要。銀座通り等の商店街は視線を遮らない鉢植えにする等の工夫ができるとうい。
- ・一の宮通りは店舗や交流空間等が立ち並ぶとともに氷川の緑につながる通りである。

6

エリアマネジメント

まちの質や魅力が持続するしくみをつくる

●エリアマネジメントを活用した空間の創出・管理

- ・エリアマネジメントは、賑わいを生む視点に加えて、収益を生む視点が必要である。交流空間で持続的に賑わいを生み出すには、民間の力の活用、各街区共通のルールづくりなどが必要である。
- ・高木植栽は管理の負担が大きいため、エリアマネジメントでの連携が重要となる。

その他のご意見

●用語について

- ・「広場」、「歩行者空間」といった言葉の定義を明確にしてほしい。

●ワーキングの進め方について

- ・議論の前提として決定していることを教えてほしい。

- ・今の進め方は、具体的な空間のイメージが理解しにくい。議論の結果を空間の具体的な検討に反映し、ワーキングで示してほしい。

